しんきょうじくらぶ
真教寺倶楽部

第24号
令和7年12月

浄土真宗本願寺派(西本願寺)
千部山　真教寺
住職　井上　浄英
〒811-1222
那珂川市下梶原2-8-1
TEL 092-952-2429

千部山　真教寺
第十八世住職
真教院　釋　敦之
（俗名・井上敦之）が
往生の素懐を
賜りました

訪　導
～訪ね　導く　いのち～
法名　真教院釋敦之
俗名　井上敦之（満78歳）

- １９４６（昭和２１）年８月１日
  誕生
- １９６５（昭和４０）年３月
  龍谷高等学校（佐賀）卒業
- １９６９（昭和４４）年３月
  龍谷大学文学部仏教学科卒業
- １９６９（昭和４４）年
  前坊守・富世と結婚
- １９７０（昭和４５）年
  第１８世住職就任（住職継職法要勤修）
- １９７７（昭和５２）年
  本堂（現在）建立
- １９８５（昭和６０）年
  第２納骨堂竣工
- １９９２（平成４）年　門徒会館竣工
- １９９６（平成８）年　山門・鐘楼竣工
- １９９８（平成１０）年　第３納骨堂竣工
- ２０１０（平成２２）年　玄関ホール（エレベーター設置）竣工
- ２０１６（平成２８）年　真教寺三大法要（親鸞聖人750回大遠忌法要・開基400年住職継職法要勤修）
  住職退任（住職在任　46年間）
- ２０２４（令和６）年　第４納骨堂竣工

（略歴）
- 浄土真宗本願寺派　福岡教区那珂組・組長（平成６年度～10年度　５年間）
- 安徳小学校ＰＴＡ会長
- 那珂川南中学校ＰＴＡ会長
- 保護司
- 民生委員
  その他

７月８日にご往生賜りました。満78歳でした。46年間、第十八世住職の任を務めました。その間、皆さまにはお支えいただきましたこと伏して御礼を申し上げます。

７月９日に通夜、10日に密葬、そして７月30日には本葬（門徒葬）を執り行いました。通夜・密葬・そして本葬（門徒葬）のご会葬、またご弔意を賜りましたこと、心より御礼を申し上げます。

南無阿弥陀仏
第十九世住職　井上浄英

～ご報告～

11月20日、真教寺の第十五世住職・釋浄観の100回忌法要をお勤めしました。お取継ぎ寺の法善寺（福岡市南区）ご住職にお勤めいただき、寺族のみで迎えさせていただきました。

大正15年11月20日が祥月命日です。満42歳でのご往生でした。その後、坊守のレイが第十六世の住職となり、ご門徒様と共に寺院護持に務めてくださいました。当時のことを思うと、想像もつかないほどのご苦労があったと思います。

今ここに真教寺があるのも、ご先祖の皆さまのお蔭の中にあることを忘れずにいたいと思います。

お寺ステーション

真教寺・仏教婦人会の特集

真教寺では仏教婦人会という教化団体があります。歴史は古く、会員総数は、99名です。主な活動として、法座開座、納骨堂の清掃奉仕、初参式のお世話などです。浄土真宗本願寺派（西本願寺）では、この仏教婦人会が全国的に組織されています。全国の各寺院にて、仏教婦人会の活動が教団を支えてくださいます。真教寺においても、大きなお支えをいただいています。

＜今年のご法縁＞

～「秋の仏教婦人会法座」～（2025年10月21日）

恒例の婦人会法座です。この法座には、那珂川市内にある他寺院の役員様がお参りに来られます。“参り合い”という習慣があり、仏法聴聞のご縁を大事にされています。法座もですが、お斎の時間も賑やかな雰囲気でした。

～「親鸞聖人降誕会・仏教婦人会法座」～（2025年5月21日）

5月21日は親鸞聖人ご誕生の日です。ご誕生をよろこぶ法要が降誕会です。仏教婦人会のご法座とあわせてお勤めしました。ご誕生のお祝いをご縁に、不定期ですが、仏教婦人会主催で初参式を開催しています。来年は初参式を開催予定です。

※初参式とは→浄土真宗において、赤ちゃんが生まれて初めてお寺にお参りする儀式です。これは、赤ちゃんの誕生を仏さまに報告し、「仏の子」として育むことを誓うとともに、ご家族や有縁の方々で新しい命の誕生を祝う行事です。

各地区役員（2024～2025年・２年任期）

役員	中　原	井上　和子（会長）
	中　原	中牟田　紀美子（副会長）
	中　原	井上　久美子（会計）
地区代表者	上梶原	村山　真弓
	上梶原	片山　節子
	下梶原	後藤　弘美
	下梶原	古川　律子
	松木・今光	友清　紀代子
	松木・今光	三上　三紀
	中　原	井上　紀子
	中　原	井上　千恵子
	仲・東隈	藤　千恵子(東隈区)
	上白水	勝野　準子
	上白水	髙田　光子

「まんまん茶房」

訪導（ほうどう）～訪ね　導く　いのち～

前住職がご往生賜りましたのが７月８日でした。その前日になりますが、長男（高校３年生）の最後の夏大会予選（高校野球）の１回戦でした。父は厳しい状態で床に臥せながらも、母と妹のサポートを受けながら、試合の模様をインターネット配信で観て応援してくれました。体がきつくて長時間は観れませんでしたが、一目でも孫の姿を見てくれたことに涙が溢れてきます。父自身が命と向き合い、一番不安にあったと思います。しかし、最後の最後まで家族のことを思い続けながら見守ってくれていました。今思うと、いつも見守っている姿がありました。

私は、父に御礼が言えませんでした…。御礼が言いたかった…。今も後悔しかありません…。日々、父への慚愧と感謝の思いが溢れるばかりです。お念仏申す中に、先だった方々が仏さまとなって導いてくださっているとお聞かせていただきます。それは、これからでも御礼が言えるということといただけます。仏となった方々は、この人生の確かな道標となってくださっているのです。

お念仏申す人生とは、阿弥陀さま、先だった方々に導かれながら、この命に届いてあるご恩に感謝しながらの尊い人生となるのであります。